

2024年度 文学部聴講生
講義要項
(フランス語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名： フランス文化史A

担当教員： 学谷 亮

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS1-D203

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:04 更新者： XEA401

更新日時： 2024-01-07 15:44:46

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、フランス語圏の自然環境・風土や、各時代の政治体制との関わりからフランス文化を捉えることで、フランス文化の多様な側面を理解することをめざします。各時代の文化を支えている時代精神や、地理・歴史・宗教・言語などに関する知識を獲得することを通して、フランス文化を理解するための思考の枠組みを作っていきます。それによって、今後のフランス文学やフランス美術の学習において、受講者が文学作品や美術作品を能動的に読み解くための基礎を身につけることを目指します。

前期の「フランス文化史A」では、フランス語圏の地理について概観した後、中世から18世紀までの話題を中心に取り上げます。政治史の理解なくして文化史の理解はおぼつきません。そこで、まずはフランス史の基礎的な流れを学び、各時代の主な文化史上の出来事を政治社会との関わりから考察していきます。さらに、フランス文化を学ぶ上で特に重要ないくつかのトピックを取り上げ、時代による変化・発展を中心に解説し、通史的知識の肉付けを図ります。

科目目的

フランス文化の本質的理解のために必要な、フランス語圏の地理と歴史に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化を支えてきた様々な制度について、その特徴と歴史的な変遷・発展に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化のもつ多様性や、フランス文化と異文化との交流・交渉について、具体的な事例からその特徴を考察できるようにする。

到達目標

フランス語圏の気候風土について説明でき、主要な河川や山脈、都市、重要な歴史的モニュメントの名称と位置を挙げるができる。
フランス史の基本的な流れを把握し、各時代における政治史上の出来事とフランス文化との関わりを説明することができる。
フランス文化を支えてきた諸制度の特徴を説明し、それらと関連する具体的な文学・芸術作品を挙げるができる。
フランス語圏と他地域の交流・交渉の基本的な歴史を把握し、異文化との接触により生じたフランス文化の変容について具体的な例を挙げながら説明することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス——フランスってどんな国？
- 第2回 ヨーロッパの中のフランス
- 第3回 首都パリとその周辺
- 第4回 多種多様な地方
- 第5回 旧植民地と海外領土
- 第6回 フランスの生成
- 第7回 キリスト教文化
- 第8回 ルネサンスと宗教戦争
- 第9回 絶対王政の確立
- 第10回 啓蒙の世紀
- 第11回 フラテン語からフランス語へ
- 第12回 「明晰な言語」の確立
- 第13回 大学の誕生
- 第14回 サロンとアカデミー

※受講生の理解度・関心に応じて、全体の科目目的・到達目標に影響しない範囲で一部内容を変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 70% | 学期中2回に分けて、レポート課題を提出してもらいます。授業内容の基本的な理解度を判定します。 |
| 平常点 | 30% | 各回の授業冒頭で提示する「今日の問い」について、授業を聞いたうえでどのように考えるか、コメントを提出してもらいます。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

毎回の授業冒頭で「今日の問い」を提示します。それについて、まず受講者各自で数分間考えた後、ペアもしくはグループで意見交換をします(「シンク・ペア・シェア」と呼ばれる手法です)。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>使用しません。授業内で使用する資料はmanabaで配布します。
<参考文献>授業中に随時紹介していきます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

この科目は教職（フランス語）の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： フランス文化史B

担当教員： 学谷 亮

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS1-D204

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:04 更新者： XEA401

更新日時： 2024-01-08 12:47:00

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業では、フランス語圏の自然環境・風土や、各時代の政治体制との関わりからフランス文化を捉えることで、フランス文化の多様な側面を理解することをめざします。各時代の文化を支えている時代精神や、地理・歴史・宗教・言語などに関する知識を獲得することを通して、フランス文化を理解するための思考の枠組みを作っていきます。それによって、今後のフランス文学やフランス美術の学習において、受講者が文学作品や美術作品を能動的に読み解くための基礎を身につけることを目指します。

後期の「フランス文化史B」では、19世紀から現代までの話題を中心に取り上げます。政治史の理解なくして文化史の理解はおぼつきません。そこで、まずはフランス史の基礎的な流れを学び、各時代の主な文化史上の出来事を政治社会との関わりから考察していきます。さらに、フランス文化を学ぶ上で特に重要ないくつかのトピックを取り上げ、時代による変化・発展を中心に解説し、通史的知識の肉付けを図ります。

科目目的

フランス文化の本質的理解のために必要な、フランス語圏の地理と歴史に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化を支えてきた様々な制度について、その特徴と歴史的な変遷・発展に関する基礎的な知識を習得する。
フランス文化のもつ多様性や、フランス文化と異文化との交流・交渉について、具体的な事例からその特徴を考察できるようにする。

到達目標

フランス史の基本的な流れを把握し、各時代における政治史上の出来事とフランス文化との関わりを説明することができる。
フランス文化を支えてきた諸制度の特徴を説明し、それらと関連する具体的な文学・芸術作品を挙げることができる。
フランス語圏と他地域の交流・交渉の基本的な歴史を把握し、異文化との接触により生じたフランス文化の変容について具体的な例を挙げながら説明することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス——「近代」って何？
- 第2回 アンシャン・レジームの崩壊
- 第3回 ナポレオン時代と第二帝政
- 第4回 第三共和制とベル・エポック
- 第5回 拡大する植民地帝国
- 第6回 二度の世界大戦
- 第7回 戦後フランス社会
- 第8回 美食の国フランス
- 第9回 余暇の誕生とツーリズム
- 第10回 近代都市パリの誕生
- 第11回 万博という文化装置
- 第12回 知識人の時代
- 第13回 ライシテという問題
- 第14回 移民とフランス文化

※受講生の理解度・関心に応じて、全体の科目目的・到達目標に影響しない範囲で一部内容を変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 70% | 学期中2回に分けて、レポート課題を提出してもらいます。授業内容の基本的な理解度を判定します。 |
| 平常点 | 30% | 各回の授業冒頭で提示する「今日の問い」について、授業を聞いたうえでどのように考えるか、コメントを提出してもらいます。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

毎回の授業冒頭で「今日の問い」を提示します。それについて、まず受講者各自で数分間考えた後、ペアもしくはグループで意見交換をします（「シンク・ペア・シェア」と呼ばれる手法です）。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>使用しません。授業内で使用する資料はmanabaで配布します。
<参考文献>授業中に随時紹介していきます。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

この科目は教職（フランス語）の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

科目名： フランス美術史A／美術史各論(1)A

担当教員： 泉 美知子

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 火3

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HR1-D251

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:04 更新者： AA1932

更新日時： 2024-01-31 12:13:23

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

スライドを利用して、美術史の基礎知識や用語の解説、時代背景についての説明を挟みながら、作品観察を中心に進めていきます。観察にあたっては、受講生との対話を織り交ぜながら進めていきます。時代的には、中世からルネサンスにかけての作品を取り上げます。フランス美術以外に、他の地域で制作された作品も比較のため参照します。

科目目的

フランス語文学文化専攻1年次生にとっては、美術史という分野への入門と、年末に予定されているコース選択の材料にしてもらうことを目的としています。一般的には、美術史という学問を通して見た美術作品の見方と、それらのつながりのつけかたについて理解することが目的です。なお、美術家や作品名、制作年代を暗記することが目的ではありません。高校までの「美術鑑賞」とも違います。精選された作品を「観察」することから学びます。

到達目標

受講生は、フランス美術史、および西洋美術史についての初歩的な知識を得るとともに、鑑賞とは違う作品の見方を獲得してください。

授業計画と内容

- 1) イントロダクション：美術史と美術史学の基礎知識
- 2) 中世美術の概要
- 3) ロマネスク美術の概要
- 4) 《バイユーのタピスリ》
- 5) 《サン＝サヴアン聖堂天井画》
- 6) ゴシック美術の概要
- 7) 《ベリー公のいとも豪華なる時祷書》
- 8) 《聖母戴冠の祭壇画》
- 9) 《アヴィニョンのピエタ》
- 10) 《シャルル7世》
- 11) ルネサンス美術とマニエリスム美術
- 12) フォンテーヌブロー派
- 13) 予備日
- 14) 全体のまとめ

*受講生の理解度を重視して進めます。そのため、各回の内容や順序は変更することがあります。
★2024年度の授業は担当者が代わりますので、取り上げる作品を変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

美術館見学を課題として課す場合があります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|--|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 60% 【注意】2024年度は担当者が代わるため、「期末試験」に変更します。例年は「レポート」です。 |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 40% 授業への積極的な参加姿勢をもとに判断します。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

例年の評価は以下の通りです。(2024年度は適用されません。)

「レポート」60%
 学期中3回に分けて実施する予定です。
 授業内容の基本的な理解度を判定します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

2024年度は、授業時間内で講評・解説の時間を設ける、とします。

(例年は以下の通りです。)
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

2024年度はレスポンスを利用して、学生のコメントを集めます。
 フィールドワークとして、美術館見学を課すことがあります。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

2024年度はGoogleドライブを利用して資料共有を行います。

(例年は以下の通りです。)
 manabaを通して双方向的な個人指導が可能な体制を作ります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：高階秀爾ほか『西洋美術史ハンドブック』（新書館 本体¥1900）
 2年次以降の美美コースの授業でも、教科書として使用します。

参考文献は、教室で随時紹介します。
 また、参考資料を配付します。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・芸術的センスや予備知識、鑑賞経験は必要ありません。テーマに多少でも関心があれば、十分理解できます。
- ・作品観察を促すため、受講生とのやりとりを行うことがあります。
- ・スライドの撮影は、固く禁じます。その他、受講のマナーについて成績評価に加味することがあります。
- ・中央大学文学部が加入している「国立美術館キャンパスメンバーズ」を利用することで、東京の3国立美術館に優待料金（学生料金よりも割安。常設展示は原則として無料）で入館することができます。積極的に利用しましょう。

参考URL

美術史美術館コース ウェブサイト
<https://arthistory.r.chuo-u.ac.jp/>

国立美術館キャンパスメンバーズ
<https://www.campusmembers.jp/>

備考

科目名： フランス美術史B／美術史各論(1)B

担当教員： 泉 美知子

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 火3

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-HR1-D252

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:05 更新者： AA1932

更新日時： 2024-01-31 12:18:21

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

スライドを利用して、美術史の基礎知識や用語の解説、時代背景についての説明を挟みながら、作品観察を中心に進めていきます。観察にあたっては、受講生との対話を織り交ぜながら進めていきます。時代的には、17世紀から19世紀までを取り上げます。また比較のために、フランス以外の美術作品も参照します。

科目目的

フランス語文学文化専攻1年次生にとっては、美術史という分野への入門と、年末に予定されているコース選択の材料にしてもらうことを目的としています。一般的には、美術史という学問を通して見た美術作品の見方と、それらのつながりのつけかたについて理解することが目的です。なお、美術家や作品名、制作年代を暗記することが目的ではありません。高校までの「美術鑑賞」とも違います。精選された作品を「観察」することから学びます。

到達目標

受講生は、フランス美術史、および西洋美術史についての初歩的な知識を得るとともに、鑑賞とは違う作品の見方を獲得してください。

授業計画と内容

- 1) イントロダクション：美術史と美術史学の基礎知識
- 2) バロック美術の概要
- 3) ジョルジュ・ド・ラ・トゥール前期
- 4) ジョルジュ・ド・ラ・トゥール後期
- 5) プッサン
- 6) ヴァトー
- 7) フラゴナール
- 8) ダヴィッド
- 9) アングル
- 10) ジェリコー
- 11) ドラクロー
- 12) クールベ
- 13) マネ
- 14) 印象主義とモネ または予備日

*受講生の理解度を重視して進めます。そのため、各回の内容等は変更することがあります。
★2024年度の授業は担当者が代わりますので、取り上げる作品を変更する可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

美術館見学を課題として課す場合があります。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|--|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 60% 【注意】2024年度は担当者が代わるため、「期末試験」に変更します。例年は「レポート」です。 |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 40% 授業への積極的な参加姿勢をもとに判断します。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

例年の評価は以下の通りです。(2024年度は適用されません。)

「レポート」60%
 学期中3回に分けて実施する予定です。
 授業内容の基本的な理解度を判定します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
 その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

2024年度は、授業時間内で講評・解説の時間を設ける、とします。

(例年は以下の通りです。)
 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

2024年度はレスポンスを利用して、学生のコメントを集めます。
 フィールドワークとして美術館見学を課すことがあります。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

2024年度はGoogleドライブを利用して資料共有を行います。

(例年は以下の通りです。)
 manabaを通して双方向的な個人指導が可能な体制を作ります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：高階秀爾ほか『西洋美術史ハンドブック』（新書館 本体¥1900）
 2年次以降の美美コースの授業でも、教科書として使用します。

参考文献は、教室で随時紹介します。
 また、参考資料を配付します。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・芸術的センスや予備知識、鑑賞経験は必要ありません。テーマに多少とも関心があれば、十分理解できる内容です。
- ・能動的な作品観察を促すため、受講生とのやりとりを行うことがあります。
- ・スライドの撮影は、固く禁じます。その他、受講のマナーについて成績評価に加味することがあります。
- ・前期のフランス美術史Aで、前の時代を扱います。可能であれば前期も履修して下さい。理解が深まります。
- ・中央大学文学部が加入している「国立美術館キャンパスメンバーズ」を利用することで、東京の3国立美術館に優待料金（学生料金よりも割安。常設展示は原則として無料）で入館することができます。積極的に利用しましょう。

参考URL

美術史美術館コース ウェブサイト
<https://arthistory.r.chuo-u.ac.jp/>

国立美術館キャンパスメンバーズ
<https://www.campusmembers.jp/>

備考

科目名： フランス言語思想A

履修年度： 2024 学期： 前期

科目ナンバー： LE-FS2-D301

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:05 更新者： AA2116

更新日時： 2024-01-07 00:54:41

担当教員： 金澤 忠信

配当年次： 2～4年次配当

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「フランス言語思想」は、「フランス」という固有名詞と、「言語」「思想」という2つの普通名詞から成り立っています。これは、「フランスにおける、言語にもとづいた思想」と解することができます。第二次世界大戦後、フランスでは、言語学をパイロット・サイエンスとして、人文・社会諸科学に一大変革をもたらす思想的潮流が現れました。この思想は「構造主義」と呼ばれ、20世紀後半の約半世紀の間、フランスのみならず、日本を含め世界の知的状況に大きな影響を与えました。この授業では、構造主義興隆の歴史的背景に目配せしつつ、その理論・方法論について、具体的にいくつかのテキストを読みながら学んでいきます。また、構造主義の今日的意義についても考察します。

科目目的

この科目は、フランス発の構造主義が、哲学、言語学、社会学、歴史学、人類学、精神分析、経済学などの人文・社会諸科学を、どのような歴史的文脈のなかで、どのように変革し、領域横断的な現在の知のあり方の礎となったかを知ることを目的とします。

到達目標

まず、構造主義の理論モデルとなった言語学あるいは記号学を理解する。そのうえで、構造主義に関連する哲学、人類学、精神分析、社会学などの研究書を読み、その方法論を身につけて、自分の専門分野の研究に活かすことができるようになる。

授業計画と内容

| 授業計画と内容 | |
|---------|-------------|
| 第01回 | イントロダクション |
| 第02回 | 言語・思想・歴史 |
| 第03回 | 一般言語学の誕生 |
| 第04回 | ラングの体系 |
| 第05回 | 言語記号の性質 |
| 第06回 | 記号学前夜 |
| 第07回 | 記号と無意識 |
| 第08回 | 記号学の原理 |
| 第09回 | 絵画の記号／記号の絵画 |
| 第10回 | 音韻論の射程 |
| 第11回 | 親族の基本構造 |
| 第12回 | 構造主義の時代 |
| 第13回 | 神話と構造 |
| 第14回 | まとめ（到達度確認） |

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

シラバスや授業で紹介された参考文献を読んで、予習復習すること。授業で配布された資料を復習し、さらにその出典や関連文献にあたって理解を発展させること。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

| | | |
|------|-----|--|
| 期末試験 | 60% | 100点満点で、60点以上が合格の目安。 |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 40% | 毎回授業時に出される課題にそってミニレポートを執筆しmanabaに提出。授業についての感想や質問を書いてもよい。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

- ①期末試験 [問1] 穴埋め問題 (40点)、[問2] 語句・用語の説明 (30点)、[問3] 論述問題 (30点)。論述問題では、各回に提出したミニレポートのいずれかを推敲するかたちで800字程度のレポートを書きます。
- ②原則的に、授業数の3分の2以上の出席およびミニレポートの提出が必要です。ミニレポートは、その質・量を評価の対象となります。授業の内容を踏まえたうえで、指定された課題にきちんと答えているかどうか、論理的で分かりやすい文章であるかどうか問われます。課題によっては、次の授業で、意見・感想の紹介、質問への回答をすることもあります。試験が苦手な人あるいは上位の成績を目指す人は、毎回のミニレポートをしっかりと書くようにしてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの活用

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 資料は毎回配布する。

■参考文献：

- ★フェルディナン・ド・ソシュール、『新訳ソシュール一般言語学講義』、町田健訳、研究社、2016年。
- ★ロマン・ヤコブソン、『一般言語学』、川本茂雄監修、みすず書房、1973年。
- ★ロマン・ヤコブソン、『音と意味についての六章』(クロード・レヴィ=ストロース序)、花輪光訳、みすず書房、1977年。
- ★クロード・レヴィ=ストロース、『親族の基本構造』、福井和美訳、青弓社、2000年。
- ★クロード・レヴィ=ストロース、『構造人類学』、荒川幾男他訳、みすず書房、1972年。
- ★クロード・レヴィ=ストロース、『野生の思考』、大橋保夫訳、みすず書房、1976年。
- ★ロラン・バルト、『零度のエクリチュール 付・記号学の原理』、渡辺淳・沢村昂一訳、みすず書
- ★ロラン・バルト、『記号学の冒険』、花輪光訳、みすず書房、1988年。
- ★J. M. ドムナック編、『構造主義とは何か』、伊藤守男・谷亀利一訳、平凡社、2004年。
- ★内田樹、『寝ながら学べる構造主義』、文春新書、2002年。
- ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史 [上巻] ——記号の沃野 1945~1966』、清水正・佐山一訳、国文社、1999年。
- ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史 [下巻] ——白鳥の歌 1967~1992』、中澤紀雄訳、国文社、1999年。

※その他の参考文献については授業で適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メールアドレス： tkanazawa116@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス言語思想B

担当教員： 金澤 忠信

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D302

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:05 更新者： AA2116

更新日時： 2024-01-06 22:20:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「フランス言語思想A」（前期）の続きですが、Aを履修していなくてもBを履修することは可能です。

「フランス言語思想」は、「フランス」という固有名詞と、「言語」「思想」という2つの普通名詞から成り立っています。これは、「フランスにおける、言語にもとづいた思想」と解することができます。第二次世界大戦後、フランスでは、言語学をパイロット・サイエンスとして、人文・社会諸科学に一大変革をもたらす思想的潮流が現れました。この思想は「構造主義」と呼ばれ、20世紀後半の約半世紀の間、フランスのみならず、日本を含め世界の知的状況に大きな影響を与えました。この授業では、構造主義興隆の歴史的背景に目配せしつつ、その理論・方法論について、具体的にいくつかのテキストを読みながら学んでいきます。また、構造主義の今日的意義についても考察します。

科目目的

この科目は、フランス発の構造主義が、哲学、言語学、社会学、歴史学、人類学、精神分析、経済学などの人文・社会諸科学を、どのような歴史的文脈のなかで、どのように変革し、領域横断的な現在の知のあり方の礎となったかを知ることを目的とします。

到達目標

まず、構造主義の理論モデルとなった言語学あるいは記号学を理解する。そのうえで、構造主義に関連する哲学、人類学、精神分析、社会学などの研究書を読み、その方法論を身につけて、自分の専門分野の研究に活かすことができるようになる。

授業計画と内容

- 第01回 イン트로ダクション
- 第02回 一般言語学（ソシュール）
- 第03回 音韻論（ヤーコブソン）
- 第04回 構造人類学（レヴィ＝ストロース）
- 第05回 言語と無意識（ラカン）
- 第06回 作者の死（バルト）
- 第07回 物語の構造分析（バルト）
- 第08回 作者とは何か（フーコー）
- 第09回 言説の領界（フーコー）
- 第10回 文字の教訓（レヴィ＝ストロース）
- 第11回 脱構築（デリダ）
- 第12回 暴力とエククリチュール（デリダ）
- 第13回 差延と反復可能性（デリダ）
- 第14回 まとめ（到達度確認）

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

シラバスや授業で紹介された参考文献を読んで、予習復習すること。授業で配布された資料を復習し、さらにその出典や関連文献にあたって理解を発展させること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|--|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 60% 100点満点で、60点以上が合格の目安。 |
| レポート | 0% |
| 平常点 | 40% 毎回授業時に出される課題にそってミニレポートを執筆しmanabaに提出。授業についての感想や質問を書いてもよい。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

- ①期末試験 [問1] 穴埋め問題 (40点)、[問2] 語句・用語の説明 (30点)、[問3] 論述問題 (30点)。論述問題では、各回に提出したミニレポートのいずれかを推敲するかたちで800字程度のレポートを書きます。
- ②原則的に、授業数の3分の2以上の出席およびミニレポートの提出が必要です。ミニレポートは、その質・量を評価の対象となります。授業の内容を踏まえたうえで、指定された課題にきちんと答えているかどうか、論理的で分かりやすい文章であるかどうか問われます。課題によっては、次の授業で、意見・感想の紹介、質問への回答をすることもあります。試験が苦手な人あるいは上位の成績を目指す人は、毎回のミニレポートをしっかりと書くようにしてください。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- ✓ 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 - ディスカッション、ディベート
 - グループワーク
 - プレゼンテーション
 - 実習、フィールドワーク
 - その他
 - 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaの活用

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 資料は毎回配布する。

■参考文献：

- ★フェルディナン・ド・ソシュール、『新訳ソシュール一般言語学講義』、町田健訳、研究社、2016年。
- ★ロマン・ヤコブソン、『一般言語学』、川本茂雄監修、みすず書房、1973年。
- ★ロマン・ヤコブソン、『音と意味についての六章』(クロード・レヴィ＝ストロース序)、花輪光訳、みすず書房、1977年。
- ★クロード・レヴィ＝ストロース、『悲しき熱帯I・II』、川田順造訳、中央公論新社、2001年。
- ★クロード・レヴィ＝ストロース、『構造人類学』、荒川幾男他訳、みすず書房、1972年。
- ★クロード・レヴィ＝ストロース、『野生の思考』、大橋保夫訳、みすず書房、1976年。
- ★ロラン・バルト、『物語の構造分析』、花輪光訳、みすず書房、1979年。
- ★ロラン・バルト、『S/Z』、沢崎浩平訳、みすず書房、1973年。
- ★ミシェル・フーコー、『作者とは何か?』、清水徹・豊崎光一訳、哲学書房、1990年。
- ★ミシェル・フーコー、『言説の領界』、慎改康之訳、河出書房、2014年。
- ★ジャック・デリダ、『グラマトロジーについて(上・下)』、足立和浩訳、現代思潮社、1972年。
- ★高橋哲哉、『デリダ——脱構築と正義』、講談社学術文庫、2015年。

- ★J.=M. ドムナック編、『構造主義とは何か』、伊藤守男・谷亀利一訳、平凡社、2004年。
- ★内田樹、『寝ながら学べる構造主義』、文春新書、2002年。
- ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史 [上巻] ——記号の沃野 1945～1966』、清水正・佐山一訳、国文社、1999年。
- ★フランソワ・ドゥス、『構造主義の歴史 [下巻] ——白鳥の歌 1967～1992』、中澤紀雄訳、国文社、1999年。

※その他の参考文献については授業で適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

メールアドレス：tkanazawa116@g.chuo-u.ac.jp

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス小説A

担当教員： 小野 潮

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D303

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:06 更新者： AA9440

更新日時： 2024-01-08 13:08:28

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期フランス小説A、後期フランス小説Bでそれぞれ2つの作品を取り上げ、それぞれの作品について、梗概を紹介したうえで、登場人物、その構造、特徴、また文学史上の位置づけについて解説していきます。
前期のフランス小説Aではバルザックの『ゴリオ爺さん』、スタンダールの『パルムの僧院』を取り上げます。どちらも19世紀フランス前半の巨匠たるふたりの小説家の代表作とされるものです。

科目目的

仏文専攻学生の必読書の中から、著名な小説作品を選び、解説する講義を聴くだけでなく、実際に読むことでフランス小説全体に対する知見を広め、体得することを目的とします。世界にとって文学とは何か、という大きな問題と共に、自分にとっての「文学」の意味を確かめる機会としてください。

到達目標

- 1) 卒業論文や次年度の個別研究、ゼミの選択などの際に、参考となる知見を持つこと。フランス小説を軸として、思想、詩、映画、演劇その他の文化現象を読み解く技術を会得し、自身の意見を的確に表現できるようになること。
- 2) 小説を分析的に読むとはどのようなことかを体得すること。
- 3) フランス人がフランス人のために書いた文章を読解できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 フランス小説史概観
- 第2回 バルザックの紹介 『ゴリオ爺さん』の梗概
- 第3回 登場人物 ラステイニヤック
- 第4回 登場人物 ヴォートラン
- 第5回 『ゴリオ爺さん』という作品の特徴
- 第6回 『人間喜劇』中の『ゴリオ爺さん』
- 第7回 『ゴリオ爺さん』に描かれるパリ、社交界
- 第8回 スタンダールの紹介、『パルムの僧院』の梗概
- 第9回 登場人物 ファブリス・デル・ドンゴ
- 第10回 登場人物 サンセヴェリナ公爵夫人
- 第11回 登場人物 モスカ伯爵
- 第12回 『パルムの僧院』におけるワーテルローの戦い
- 第13回 『パルムの僧院』におけるパルムの宮廷
- 第14回 前期の振り返り

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

なるべく早く、指定されたテキストを一度だけでなく、数度にわたって読み込んでください。
また配布した原文抜粋もできるだけ自分で辞書を引きながら読み込んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|--|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 80% 学期中に『アドルフ』学期末に『危険な関係』についてのレポートを提出していただきます。 |
| 平常点 | 20% 授業中の発言、授業への主体的参加 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

取り上げる二作品についてレポートを提出していただきます。
ただし、その作品ではなくて、他のフランス小説を取り上げていただいても構いません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

グループを作ってください、それぞれの作品の登場人物の特徴、物語の作り方の特徴、物語の構造などについて議論し、それについてプレゼンしていただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

バルザック、『ゴリオ爺さん』、平岡篤頼訳、新潮文庫
スタンダール『パルムの僧院』、上下。大岡昇平訳 新潮文庫
他に必要資料をコピーで配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス小説B**担当教員： 小野 潮**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-D304

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:59:06 更新者：AA9440

更新日時：2024-01-08 13:08:51

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期フランス小説A、後期フランス小説Bでそれぞれ2つの作品を取り上げ、それぞれの作品について、梗概を紹介したうえで、登場人物、その構造、特徴、また文学史上の位置づけについて解説していきます。
後期のフランス小説Bでは19世紀後半の作品を二編取り上げます。エミール・ゾラの『居酒屋』と、モーパッサンの『女の一生』です。どちらの作品も日本人が長年にわたって読み続けてきて、西洋小説の代表作として受容されてきた作品です。

科目目的

19世紀後半の長編小説に親しむことを目的とします。解説する講義を聴くだけでなく、実際に読むことでフランス小説全体に対する知見を広め、体得することを目的とします。世界にとって文学とは何か、という大きな問題と共に、自分にとっての「文学」の意味を確かめる機会としてください。

到達目標

- 1) 卒業論文や次年度の個別研究、ゼミの選択などの際に、参考となる知見を持つこと。フランス小説を軸として、思想、詩、映画、演劇その他の文化現象を読み解く技術を会得し、自身の意見を的確に表現できるようになること。
- 2) 小説を分析的に読むとはどのようなことかを体得すること。
- 3) フランス人がフランス人のために書いた文章を読解できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 19世紀フランス小説史概観
- 第2回 エミール・ゾラの紹介 『居酒屋』の梗概
- 第3回 エミール・ゾラ『ルゴン＝マッカール叢書』について
- 第4回 登場人物 ジェルヴェーズ
- 第5回 労働者階級を描く小説
- 第6回 第二帝政の時代を描く小説
- 第7回 ゾラとバルザック
- 第8回 モーパッサンの紹介 『女の一生』の1梗概
- 第9回 登場人物 ジャンヌ
- 第10回 ジャンヌを取り巻く男性たち
- 第11回 地方を描く小説
- 第12回 ありきたりの女性を描く小説
- 第13回 不幸に見舞われ続ける人物を主人公とする小説
- 第14回 学年全体の振り返り

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定された二作品の翻訳はなるべく早く、一度ではなく数度読むようにしてください。
また配布された原文についても、自分で辞書をひいて読解を試みてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

| | |
|------|---|
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 80% 学期中に『心変わり』学期末に『夜明けの約束』についてのレポートを提出していただきます。 |
| 平常点 | 20% 授業中の発言、授業への主体的参加。 |
| その他 | 0% |

成績評価の方法・基準(備考)

取り上げる二作品についてレポートを提出していただきます。
ただし、その作品ではなくて、他のフランス小説を取り上げていただいても構いません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
 - ✓ グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

グループを作ってください、それぞれの作品の登場人物の特徴、物語の作り方の特徴、物語の構造などについて議論し、それについてプレゼンしていただきます。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

エミール・ゾラ『居酒屋』新潮文庫 古賀照一訳
モーパッサン、『女の一生』光文社古典新訳文庫、永田千奈訳
他に必要資料をコピーで配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

- 語文コースブログ 毎週、更新中！
<https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>
- 中央大学 仏文専攻 語文コース：
<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

科目名： フランス詩A

担当教員： 前之園 望

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D305

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:06

更新者： gakubuadmin 更新日時： 2024-01-16 12:35:58

履修条件・関連科目等

フランス語の基礎文法を修得済みであること。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

外国語に翻訳するのが一番難しい表現はなんだと思いますか？ 哲学用語？ 時事用語？ いいえ、それは「ダジャレ」です。たとえば「布団がふっとんだ」の〈くだらなさ〉まで100%ニュアンスを伝える英訳は可能でしょうか？ “The futon was blown up.”なんて訳しても全然おもしろみがありませんね。ある言語内での単語間の音の類似を、そっくりそのまま他の言語に置き換えるのはほぼ不可能です。

詩は特に音の響き合いを利用する傾向の強い言語芸術です。詩作品は、翻訳で読んでももちろん楽しめますが、原文で同じ作品を読むと、いかに翻訳でこぼれ落ちてしまうものが多いかということに気が付きます。これは、翻訳者の技量ではどうしようもない、言語の構造的な問題です。

フランス語の基礎文法を学んだ方は、フランス詩を原文で丸ごと味わうことができます。これは大きな特権です。翻訳は大いに利用して構いません。原文で作品を読み、その翻訳を補う視点から作品を楽しみましょう。

フランス詩Aの授業では、毎回の授業時間を3つに分け、テーマ別の授業を行います。まず、フランスにおける詩の歴史（中世～20世紀）を時代ごとに概観して、大まかな流れを把握する時間を取ります。次に、時代区分とは関係なく読みやすい小ぶりの詩作品を読み、分析の仕方を学びます。フランス語で書かれた詩を原文のまま味わい、音読、訳読を通してフランス詩独自の作品空間を自分の身体で体感できるようになります。授業の最後には、グループワークで、次週に行う復習小テストの原案作成も行ってもらいます（詳細は授業で説明しますが、大きな負担にはなりません）。出題者側の視点に立ち、周囲と意見交換をすることで、その日の授業内容が自然と整理（復習）されることでしょうか。授業後には、毎回授業に関するミニコメントをmanabaの掲示板に書き込んでいただきます。他の履修生に読まれることを前提に、作品の解釈、感想、疑問点などを書き込んでください。書き込みの頻度は平常点に反映されます。また、ヴァリアントゲームというオリジナルゲームにも参加していただきます（詳細は参考URLの解説動画でご確認ください）。パワーポイントを使用しますので、パソコンやタブレットの準備をお願いいたします。

学期末に授業内容に関するレポートを提出していただき、平常点と合わせて成績を評価します。

科目目的

1年生で学んだフランス語の基礎文法を文学作品読解に実際に適用する能力を身に付ける。小ぶりの詩の分析作業を通して文学作品の構造分析の基礎的技術を身に付け、ボリュームのある詩篇、小説などの作品分析にもその技術をいかせるようになる。

到達目標

1. フランス詩の歴史（中世～20世紀）の概要を把握する。
2. 授業で扱った詩作品の音声上の特徴を理解する。
3. 授業で扱った詩作品の文法構造を理解する。
4. 授業で扱った詩作品で使用されている修辭法を理解する。
5. 上記の観点を踏まえて自分で詩作品の解釈を行う。

授業計画と内容

- 第1回：授業概要説明。定義ゲーム。
- 第2回：中世 / ジャン・コクトー「踊り子」
- 第3回：ルネサンス / ロベール・デスノス「蟻」「ペリカン」
- 第4回：バロック・古典主義 / ポール・エリュアール「魚」「恋する女」
- 第5回：ロマン主義① / ジャック・プレヴェール「Paris at night」「庭園」
- 第6回：ロマン主義② / フィリップ・スーポー「急げ」
- 第7回：ヴァリアントゲーム①
- 第8回：高踏派 / ポール・ヴェルレーヌ「秋の歌」
- 第9回：象徴主義 / ポール・ヴェルレーヌ「白い月」
- 第10回：キュビズム / アルチュール・ランボー「感覚」
- 第11回：シュルレアリスム / アルチュール・ランボー「谷間に眠る者」
- 第12回：現代詩 / ジュール・ルナール「カワセミ」
- 第13回：ヴァリアントゲーム②
- 第14回：まとめ

(授業回は大体の目安であり、履修者の人数や理解度によって内容を追加・変更することがあります。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 50% | 以下の5項目を採点基準とし評価する。 ①提出期間を含め課題の規定に従っている。 ②構成(問題設定・本論・結論)が適切である。 ③主題(論旨)が明確かつ説得的である。 ④執筆者にしか書けない独創性がある。 ⑤誤字脱字などのない明晰な文章である。 |
| 平常点 | 50% | 50%の内訳は、30%が毎回の小テスト・掲示板の書き込み、20%がディスカッション・グループ発表などへの参加態度。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

毎回の授業へのコメントを共有するためにmanabaの掲示板機能を利用します。また、小テスト、ヴァリエントゲームを行う際に、タブレット、パソコンなどが必要になります。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業で扱う作品はmanabaを通して配布しますが、主に以下の対訳詩集に掲載されている作品を扱う予定です。教科書に指定はしませんが、良い本なので購入をお勧めします。
☆安藤元雄・入沢康夫・洪沢孝輔〔編〕『フランス名詩選』岩波文庫、1998年。

以下は参考文献です。

【詩集】

- ・アルチュール・ランボー『対訳 ランボー詩集』中地義和編、岩波文庫、2020年。
- ・ジャック・プレヴェール『プレヴェール詩集』小笠原豊樹訳、岩波文庫、2017年。
- ・ジュール・ルナール『博物誌』岸田國士訳、新潮文庫、1954年。
- ・ギヨーム・アポリネール『アポリネール詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1954年。
- ・ポール・ヴェルレーヌ『ヴェルレーヌ詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1950年。

【詩を読むということ】

- ・渡邊十糸子『今を生きるための現代詩』講談社現代新書、2013年。
- ・阿部公彦『文学を〈凝視〉する』岩波書店、2012年。
- ・大森晋輔『フランスの詩と歌の愉しみ 近代詩と音楽』東京藝術大学出版会、2012年。
- ・中地義和『ランボー 自画像の詩学』岩波書店、2005年。
- ・窪田般彌『ミラボー橋の下をセーヌが流れ——フランス詩への招待』白水社、ふらんす双書、1975年。
- ・田中淳一『地球とオレンジ——フランス現代詩を読む』白水社、ふらんす双書、1980年。
- ・安藤元雄『新版 フランス語の散歩道』白水社、1996年。

【フランス詩法】

- ・杉山正樹『やさしいフランス詩法』白水社、1981年。

【フランス文学史】

- ・田村毅・塩川徹也編『フランス文学史』東京大学出版会、1995年。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・5回以上欠席された方は、原則として成績評価の対象となりません。やむを得ない個別の事情がある場合は、必ず事前にご相談ください。
- ・事前に教員に相談があり、教員がやむを得ないと判断した場合に限り、欠席された方が自宅からオンライン受講することを認めます。なお、オンライン受講をされても出欠記録は「欠席」となります。
- ・個別の連絡には「個別指導（コレクション）」を使用し、要件ごとにスレッドを立ててください。クラス全体の「掲示板」に個人情報を書き込まないようご注意ください。
- ・毎回の授業は、webexで授業画面のみ録画をし（教室の様子は撮影しません）可能な範囲でアーカイブ公開を行う予定です。授業内容の復習に役立ててください。
- ・聴講生の方のグループワークへの参加は任意とします。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。
語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>
前之園望の研究室 https://www.youtube.com/@nozomu_maenosono_chuo

ヴァリエントゲームの解説動画もご覧ください。
https://youtu.be/5vk-yp_X6Ls

備考

科目名： フランス詩B

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

担当教員： 前之園 望

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D306

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:07

更新者： gakubadmin 更新日時： 2024-01-16 12:36:30

履修条件・関連科目等

フランス語の基礎文法を修得済みであること。
「フランス詩A」を履修していると、授業内容をより深く理解できます。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

外国語に翻訳するのが一番難しい表現はなんだと思いますか？ 哲学用語？ 時事用語？ いいえ、それは「ダジャレ」です。たとえば「布団がふっとんだ」の〈くだらなさ〉まで100%ニュアンスを伝える英訳は可能でしょうか？ “The futon was blown up.”なんて訳しても全然おもしろみがありませんね。ある言語内での単語間の音の類似を、そっくりそのまま他の言語に置き換えるのはほぼ不可能です。

詩は特に音の響き合いを利用する傾向の強い言語芸術です。詩作品は、翻訳で読んでももちろん楽しめますが、原文で同じ作品を読むと、いかに翻訳でこぼれ落ちてしまうものが多いかということに気が付きます。これは、翻訳者の技量ではどうしようもない、言語の構造的な問題です。

フランス語の基礎文法を学んだ方は、フランス詩を原文で丸ごと味わうことができます。これは大きな特権です。翻訳は大いに利用して構いません。原文で作品を読み、その翻訳を補う視点から作品を楽しみましょう。

フランス詩Bでは、19世紀・20世紀に活躍した詩人の作品を鑑賞します。フランス語で書かれた詩を原文のまま味わい、音読、訳読を通してフランス詩独自の作品空間を自分の身体で体感できるようになりましょう。授業はグループワークを中心に進めます。以下の要領で一つの詩作品に2週間かける予定です。

■1週目

分析対象の詩作品の音読を行い、詩句の文法構造を丁寧に確認します。指名して内容の確認を行うことがありますので、最低でも作品中に使用されている単語の意味は調べておきましょう。授業後半ではチームに分かれて、以下のグループワークを行います。①分析対象の詩作品について自由にディスカッションを行い、その内容をチーム代表者が発表する。②分析対象の詩作品に関する文法問題を各チーム3問作成し、正解と共に全体で共有する。

■2週目

授業開始時に小テストを行います。試験範囲は前回の授業内容。グループワークで作成してもらった問題の一部が使用される可能性があります。試験結果は平常点に加算されます。次に、チーム対抗でヴァリエントゲーム（詳細は参考URLの解説動画でご確認ください）を行います。

授業後には毎回授業に関するミニコメントをmanabaの掲示板に書き込んでいただきます。他の履修生に読まれることを前提に、作品の解釈、感想、疑問点などを書き込んでください。書き込みの頻度は平常点に反映されます。

学期末に授業内容に関するレポートを提出していただき、平常点と合わせて成績を評価します。

科目目的

1年生で学んだフランス語の基礎文法を文学作品読解に実際に適用する能力を身に付ける。小ぶりな詩の分析作業を通して文学作品の構造分析の基礎的技術を身に付け、ボリュームのある詩篇、小説などの作品分析にもその技術をいかせるようになる。

到達目標

1. 授業で扱った詩作品の音声上の特徴を理解する。
2. 授業で扱った詩作品の文法構造を理解する。
3. 授業で扱った詩作品で使用されている修辞法を理解する。
4. 上記の観点を踏まえて自分で詩作品の解釈を行う。

授業計画と内容

- 第1回：授業概要説明。定義ゲーム。
- 第2回：ジャック・ブレヴェール「美術学校」文法解説。
- 第3回：ジャック・ブレヴェール「美術学校」小テスト。ヴァリエントゲーム。
- 第4回：アルチュール・ランボー「わが放浪」文法解説。
- 第5回：アルチュール・ランボー「わが放浪」小テスト。ヴァリエントゲーム。
- 第6回：ジェラルド・ド・ネルヴァル「黄金詩篇」文法解説。
- 第7回：ジェラルド・ド・ネルヴァル「黄金詩篇」小テスト。ヴァリエントゲーム。
- 第8回：シャルル・ボードレー「コレスボンダンス」文法解説。

- 第9回：シャルル・ボードレー「コレスポンドダンス」小テスト。ヴァリエントゲーム。
- 第10回：ギヨーム・アポリネール「ミラボー橋」文法解説。
- 第11回：ギヨーム・アポリネール「ミラボー橋」小テスト。ヴァリエントゲーム。
- 第12回：ジャック・プレヴェール「学校を出て」文法解説。
- 第13回：ジャック・プレヴェール「学校を出て」小テスト。ヴァリエントゲーム。
- 第14回：まとめ

(授業回は大体の目安であり、履修者の人数や理解度によって内容を追加・変更することがあります。)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 50% | 以下の5項目を採点基準とし評価する。 ①提出期間を含め課題の規定に従っている。 ②構成(問題設定・本論・結論)が適切である。 ③主題(論旨)が明確かつ説得的である。 ④執筆者にしか書けない独創性がある。 ⑤誤字脱字などのない明晰な文章である。 |
| 平常点 | 50% | 50%の内訳は、30%が毎回の小テスト・掲示板の書き込み、20%がディスカッション・グループ発表などへの参加態度。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

毎回の授業へのコメントを共有するためにmanabaの掲示板機能を利用します。また、小テストやヴァリエントゲームを行う際に、タブレット、パソコンなどが必要になります。

実務経験のある教員による授業

✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業で扱う作品はmanabaを通して配布します。以下は参考文献です。

【詩集】

- ・アルチュール・ランボー『対訳 ランボー詩集』中地義和編、岩波文庫、2020年。
- ・ジャック・プレヴェール『プレヴェール詩集』小笠原豊樹訳、岩波文庫、2017年。
- ・安藤元雄・入沢康夫・洪沢孝輔〔編〕『フランス名詩選』岩波文庫、1998年。
- ・ジュール・ルナール『博物誌』岸田國士訳、新潮文庫、1954年。
- ・ギヨーム・アポリネール『アポリネール詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1954年。
- ・ポール・ヴェルレーヌ『ヴェルレーヌ詩集』堀口大學訳、新潮文庫、1950年。

【詩を読むということ】

- ・渡邊十糸子『今を生きるための現代詩』講談社現代新書、2013年。
- ・阿部公彦『文学を〈凝視〉する』岩波書店、2012年。
- ・大森晋輔『フランスの詩と歌の愉しみ 近代詩と音楽』東京藝術大学出版会、2012年。
- ・中地義和『ランボー 自画像の詩学』岩波書店、2005年。
- ・窪田般彌『ミラボー橋の下をセーヌが流れ——フランス詩への招待』白水社、ふらんす双書、1975年。
- ・田中淳一『地球とオレンジ——フランス現代詩を読む』白水社、ふらんす双書、1980年。
- ・安藤元雄『新版 フランス語の散歩道』白水社、1996年。

【フランス詩法】

- ・杉山正樹『やさしいフランス詩法』白水社、1981年。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・5回以上欠席された方は、原則として成績評価の対象となりません。やむを得ない個別の事情がある場合は、必ず事前にご相談ください。
- ・事前に教員に相談があり、教員がやむを得ないと判断した場合に限り、欠席された方が自宅からオンライン受講することを認めます。なお、オンライン受講をされても出欠記録は「欠席」となります。
- ・個別の連絡には「個別指導（コレクション）」を使用し、要件ごとにスレッドを立ててください。クラス全体の「掲示板」に個人情報を書き込まないようにご注意ください。
- ・毎回の授業は、webexで授業画面のみ録画をし（教室の様子は撮影しません）可能な範囲でアーカイブ公開を行う予定です。授業内容の復習に役立ててください。
- ・聴講生の方のグループワークへの参加は任意とします。

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。
語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>
語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>
前之園望の研究室 https://www.youtube.com/@nozomu_maenosono_chuo

ヴァリエントゲームの解説動画もご覧ください。
https://youtu.be/5vk-yp_X6Ls

備考

科目名： フランス文学研究A

担当教員： 小嶋 洋介

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D307

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:07 更新者： AB2707

更新日時： 2024-01-09 14:22:49

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品を読むとは、魂のコトバを読み取り、対話を交わすことです。対話相手のほとんどは、亡くなった人の魂です。何十年、何百年、時には何千年も以前に亡くなった人々と会話をするのです。そのような体験を通じて、人の形は無くなっても魂は滅びない、今も生きているという思いをするのではないのでしょうか。もちろん、どのような作品が私達の「こころ」を魂の対話へと誘うのか、人によって様々でしょう。またこの時、文学作品は、小説や詩といったジャンルに限ったことではありません。神話、哲学、あるいは科学的テキストにおいても、そのような誘いの力を持つものは少なくありません。授業では、もっぱら「私」の「こころ」に触れてきた作品を紹介します。

講義は、歴史的な流れを辿りながら、「魂」の問題の西洋的な展開を把握した上で、フランス文学に読み得るその「コトバ」に対し、私なりに答えてみたいと思います。「フランス」文学以外のテキストにも言及する故、比較文学・文化の要素も併せ持つ授業である点、ご了承ください。とにかく様々なテキストと一緒に読んでみましょう。そして、皆さんも自分なりに、過去から届く魂の声との応答を試みてみてください。

前期A講義では、古代からルネサンスにかけての作品を取り上げます。特に前半は、オリエン神話、ギリシア神話、悲劇、哲学というフランス以外の作品を扱います。それらが、いかなる意味で「フランス文学」と関わってくるかは、徐々に明らかとなります。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上の講義科目として位置づけられていることから、この科目での学習を通じて、学生がフランス文学に対する基礎知識を修得するとともに、言語・文化・社会についての素養と複眼的思考の重要性を理解できるようになります。
- ・この科目は、文学部のディプロマポリシーである「幅広い教養」「複眼的思考」「専門的学識」を修得することを目的としています。

到達目標

フランス文学、ならびにより広い意味での「文学」に関する認識を深めることを目指します。しかしながら、講義で論じる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標です。

授業計画と内容

- 第1回 始まりの文学＝「神話」（ミュトス）について
- 第2回 『ギルガメッシュ叙事詩』
- 第3回 ギリシア神話：特にプロメテウスとディオニュソスについて
- 第4回 ソポクレス『オイディプス王』
- 第5回 ソポクレス『クロノスのオイディプス』
- 第6回 井筒俊彦による「神秘哲学」とディオニュソス
- 第7回 プラトン『ソクラテスの弁明』『パイドン』
- 第8回 プラトン『饗宴』
- 第9回 聖者伝と『ロランの詩』
- 第10回 『トリスタン・イゾー物語』とケルト
- 第11回 トーマス・マロリー『アーサー王の死』
- 第12回 クレティアン・ド・トロワ『ペルスヴァル』と聖杯伝説
- 第13回 ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル』
- 第14回 モンテーニュ『エッセー』

以上に掲げた事項はあくまで予定にすぎず、実際の授業の進展に応じ、様々な修正のあり得る旨ご承知ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | 実施せず |
| 期末試験 | 0% | 実施せず |
| レポート | 80% | 期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。 |
| 平常点 | 20% | 適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。また、授業への参加度、受講態度の状況なども、平常点に含めます。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケートや掲示板などの機能を用いて、適宜、学生の反応を把握しながら授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：
講義原稿をmanabaに掲載します。

参考文献：
レヴィ=ストロース『構造・神話・労働—クロード・レヴィ=ストロース日本講演集』みすず書房
『ギルガメッシュ叙事詩』ちくま学芸文庫
ソボクレス『オイディップス王』『コロノスのオイディップス』ちくま文庫、岩波文庫
井筒俊彦『神秘哲学』岩波文庫他
プラトン『ソクラテスの弁明』『パイドン』『饗宴』岩波文庫他

『ロランの詩』 岩波文庫他
『トリスタン・イゾー物語』 岩波文庫他
マロリー『アーサー王の死』 ちくま文庫
クレティアン・ド・トロワ『ペルスヴァルまたは聖杯の物語』（『フランス中世文学集2』白水社）
ラブレール『ガルガンチュアとパンタグリユエル』 岩波文庫、ちくま文庫
モンテーニュ『エッセー』 白水社、岩波文庫他

その他、授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス文学研究B

担当教員： 小嶋 洋介

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 木2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-D308

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:07 更新者： AB2707

更新日時： 2024-01-09 14:23:22

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

文学作品を読むとは、魂のコトバを読み取り、対話を交わすことです。対話相手のほとんどは、亡くなった人の魂です。何十年、何百年、時には何千年も以前に亡くなった人々と会話をするのです。そのような体験を通じて、人の形は無くなっても魂は滅びない、今も生きているという思いをするのではないのでしょうか。もちろん、どのような作品が私達の「こころ」を魂の対話へと誘うのか、人によって様々でしょう。またこの時、文学作品は、小説や詩といったジャンルに限ったことではありません。神話、哲学、あるいは科学的テキストにおいても、そのような誘いの力を持つものは少なくありません。授業では、もっぱら「私」の「こころ」に触れてきた作品を紹介しします。

講義は、歴史的な流れを辿りながら、「魂」の問題の西洋的な展開を把握した上で、フランス文学に読み得るその「コトバ」に対し、私なりに答えてみたいと思います。「フランス」文学以外のテキストにも言及する故、比較文学・文化の要素も併せ持つ授業である点、ご了承ください。とにかく様々なテキストと一緒に読んでみましょう。そして、皆さんも自分なりに、過去から届く魂の声との応答を試みてみてください。

後期B講義では、近世～近代にいたる「フランス文学」のテキストを、より具体的・多角的に取り上げ論究します。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上の講義科目として位置づけられていることから、この科目での学習を通じて、学生がフランス文学に対する基礎知識を修得するとともに、言語・文化・社会についての素養と複眼的思考の重要性を理解できるようになります。
- ・この科目は、文学部のディプロマポリシーである「幅広い教養」「複眼的思考」「専門的学識」を修得することを目的としています。

到達目標

フランス文学、ならびにより広い意味での「文学」に関する認識を深めることを目指します。しかしながら、講義で論じる多種・多様な問題を、単なる知識として受容するのではなく、独自に論究し「思索」することに向けての「導き」とすることが、より大きな目標です。

授業計画と内容

- 第1回 デカルト『方法序説』
- 第2回 ルソー『孤独な散歩者の夢想』
- 第3回 ミシュレ：ルネサンスとフランス革命
- 第4回 ミシュレ『魔女』と自然
- 第5回 メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』 光文社古典新訳文庫他
- 第6回 ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』
- 第7回 ヴィリエ・ド・リラダン『ヴェラ』
- 第8回 ゴーレムと生命の神秘主義
- 第9回 ボードレール：「万物照応」の詩想
- 第10回 ランボー：言葉の錬金術
- 第11回 バルザック『ゴリオ爺さん』
- 第12回 バルザック『ルイ・ランペール』
- 第13回 スタンダール『赤と黒』
- 第14回 フローベール『ボヴァリー夫人』

以上に掲げた事項はあくまで予定にすぎず、実際の授業の進展に応じ、様々な修正のあり得る旨ご承知ください。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | 実施せず |
| 期末試験 | 0% | 実施せず |
| レポート | 80% | 期末レポートを提出してもらいます。単位を取得するうえで、提出が必須事項となります。自分なりの考えを提示しようとする意思があり、同時に自分の考えを他者に明確に伝える文章に優れていると判断できるレポートを、高く評価します。 |
| 平常点 | 20% | 適当な時期に、「小レポート」を課題として出します。「期末レポート」執筆・提出の練習や準備となるものです。この小レポートだけで、単位を取得することはできません。また、授業への参加度、受講態度の状況なども、平常点に含めます。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケートや掲示板などの機能を用いて、適宜、学生の反応を把握しながら授業を進めていく。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト：
講義原稿をmanabaに掲載します。

参考文献：
デカルト『方法序説』ちくま学芸文庫他
ルソー『孤独な散歩者の夢想』光文社新古典翻訳文庫他
ミシュレ『ジャンヌ・ダルク』中公文庫、『魔女』岩波文庫
メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』光文社古典新訳文庫他
ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』岩波文庫他
ボードレール『ボードレール全詩集』ちくま文庫他
ランボー『対訳 ランボー詩集』岩波文庫他

バルザック『ゴリオ爺さん』光文社古典新訳文庫他、『神秘の書』水声社
スタンダール『赤と黒』光文社古典新訳文庫他
フローベール『ボヴァリー夫人』新潮文庫他、『感情教育』光文社古典新訳文庫他

その他、授業中に適宜指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名： フランス映画A

担当教員： 伊藤 洋司

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D309

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:08 更新者： AA0416

更新日時： 2023-12-29 22:31:18

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

フランス映画論

フランス映画の歴史と美学とを学ぶ。時代、ジャンルを問わずあらゆる映画が研究対象となる。フランス映画の特質を理解するために、他の国の映画を取り上げて比較することも多い。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識及び幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- (1) 映画論、特にフランス映画論の基本的知識と専門的教養を身につける。
- (2) 映画全般、特にフランス映画について自分自身の頭で本格的に思考できるような能力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回「歴史学と美学」
 - 第2回「映画史を語るひとつの方法」
 - 第3回「先生、映画文法って何ですか」
 - 第4回「映画美学1：映像」
 - 第5回「映画美学2：物語」
 - 第6回「何故、僕はフランス映画論の講義で黄金期ハリウッドを学ばなければならないのか」
 - 第7回「ルイ・フィヤード論、あるいは活劇の起源」
 - 第8回「初期ジャン・ルノワール論、あるいは1920年代アヴァンギャルド」
 - 第9回「ジャン・ヴィゴ論、あるいはアヴァンギャルドの死」
 - 第10回「ドイツ人のハリウッド、ロシア人のフランス映画」
 - 第11回「切り返しという最もスリリングな虚構について」
 - 第12回「雨に濡れ風に吹かれ、そして男と女は変わっていく」
 - 第13回「長澤まさみと新垣結衣はどちらが映画的か、あるいは純愛を信じていたのは遠い昔」
 - 第14回「小津安二郎の墓、あるいは映像には肯定表現しか存在しない」
- *映画の劇場公開やDVD発売、さらには学生の反応に応じて、実際の講義内容は変化する。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義で一部分のみを取り上げた映画や、推薦もしくは言及した映画をできるだけ実際に観るようにする。
あるいは、講義内容に関係する参考文献を読んで理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 90% | 映画についての基礎知識を理解した上で、映画の根本に関わる問題を学生独自の観点から説明できるかどうかを評価します。 |

平常点 10% 講義に勤勉な態度で望んでいるかどうかを基準とします。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関する学生の質問を、manabaの個別指導 (コレクション) でいつでも受けつけ、それに回答します。
講義に余裕があれば、学生全体に問いを投げかけ、回答してもらいながら、一緒に考えるという時間を設けたいと考えています。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

長年に渡って、雑誌にて国内外の様々な映画監督へのインタビューを行っており、また時には、映画製作において、脚本やカット割りに関して具体的な助言を行なうこともあります。

実務経験に関連する授業内容

講義で行なう映画の分析において、実務経験を活かす。

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要があればプリントを配布する。

参考文献

伊藤洋司『映画時評集成2004-2016』、読書人、2017年。

Yoji ITO, Apollinaire et la lettre d' amour, Editions Connaissances et Savoirs, Paris.

『週刊読書人』で「映画時評」を連載中です。また、『ユリイカ』『中央評論』等の雑誌や映画のパンフレット等に映画批評を發表し、『週刊読書人』には蓮實重彦との対談等も掲載しているので、もし興味があれば参照してください。

オフィスアワー

その他特記事項

映画が好きな人が履修してください。

講義で見せる映画の場面には性的あるいは暴力的な描写が含まれることがあります。多くの学生は何も感じないかもしれませんが、感受性には個人差があります。こうした描写に敏感な学生は留意してください。

講義内容に関する質問を、manabaの個別指導 (コレクション) でいつでも受けつけます。

参考URL

備考

科目名： フランス映画B**担当教員： 伊藤 洋司**

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D310

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:09 更新者： AA0416

更新日時： 2023-12-29 22:36:40

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

フランス映画論

フランス映画の歴史と美学とを学ぶ。時代、ジャンルを問わずあらゆる映画が研究対象となる。フランス映画の特質を理解するために、他の国の映画を取り上げて比較することも多い。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識及び幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- (1) 映画論、特にフランス映画論の基本的知識と専門的教養を身につける。
- (2) 映画全般、特にフランス映画について自分自身の頭で本格的に思考できるような能力を身につける。

授業計画と内容

- 第1回 「ロベール・ブレッソン論、あるいは空間の表象」
 - 第2回 「ゴダールなんて知らないよ」
 - 第3回 「1960年代はマニエリスムの夢を見るか」
 - 第4回 「あらゆる映画は虚構である、あるいは虚構世界の充足理由律」
 - 第5回 「水平運動の永続と落下の誘惑はフェティシズムなのか」
 - 第6回 「愛という活劇、活劇という運動」
 - 第7回 「真面目な少女のための恋愛映画論：純情篇／エロティシズム篇」
 - 第8回 「触れることを禁じられ、ただ見ることしかできない」
 - 第9回 「窓というスクリーン、あるいは象徴秩序と幻想」
 - 第10回 「言葉からもイメージからもすり抜けるもの、あるいはリアルという虚無」
 - 第11回 「ただ単位が欲しいだけ、あるいは私の欲望は他者の欲望である」
 - 第12回 「善と美という価値の幻想、あるいは剰余享楽」
 - 第13回 「量子力学の時代にスピノザやニーチェのような愛は可能なのか」
 - 第14回 「大きな物語の終焉、あるいは宇宙の本質的無意味」
- *映画の劇場公開やDVD発売、さらには学生の反応に応じて、実際の講義内容は変化する。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義で一部分のみを取り上げた映画や、推薦もしくは言及した映画をできるだけ実際に観るようにする。
あるいは、講義内容に関係する参考文献を読んで理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 90% | 映画についての基礎知識を理解した上で、映画の根本に関わる問題を学生独自の観点から説明できるかどうかを評価します。 |

平常点 10% 講義に勤勉な態度で望んでいるかどうかを基準とします。
その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

講義内容に関する学生の質問を、manabaの個別指導 (コレクション) でいつでも受けつけ、それに回答します。
講義に余裕があれば、学生全体に問いを投げかけ、回答してもらいながら、一緒に考えるという時間を設けたいと考えています。

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

長年に渡って、雑誌にて国内外の様々な映画監督へのインタビューを行っており、また時には、映画製作において、脚本やカット割りに関して具体的な助言を行なうこともあります。

実務経験に関連する授業内容

講義で行なう映画の分析において、実務経験を活かす。

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。必要があればプリントを配布する。

参考文献

伊藤洋司『映画時評集成2004-2016』、読書人、2017年。

Yoji ITO, Apollinaire et la lettre d' amour, Editions Connaissances et Savoirs, Paris.

『週刊読書人』で「映画時評」を連載中です。また、『ユリイカ』『中央評論』等の雑誌や映画のパンフレット等に映画批評を發表し、『週刊読書人』には蓮實重彦との対談等も掲載しているので、もし興味があれば参照してください。

オフィスアワー

その他特記事項

映画が好きな人が履修してください。

講義で見せる映画の場面には性的あるいは暴力的な描写が含まれることがあります。多くの学生は何も感じないかもしれませんが、感受性には個人差があります。こうした描写に敏感な学生は留意してください。

講義内容に関する質問を、manabaの個別指導 (コレクション) でいつでも受けつけます。

参考URL

備考

科目名： フランス文化研究A

担当教員： 杉村 裕史

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 木3

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-FS2-D311

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:59:09 更新者： AA1932

更新日時： 2024-01-31 10:46:19

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

フランスの地理・歴史を踏まえつつ、現代フランスを代表する文化事項をテーマごとに学ぶ。

科目目的

前期はフランス共和国の歴史や政治制度を中心として、現代フランスが抱える、移民問題、女性問題、家族問題、教育問題などを細かくテーマに分けて理解する。

到達目標

「フランス的なこと」とは何かを考える力をつける。

授業計画と内容

- 1 前期オリエンテーション+フランスの地理
 - 2 フランス史と、フランス文化の重層性
 - 3 (小テスト第1回：第1, 2回分の内容で20点) フランス人のイメージ
 - 4 フランス語の歴史
 - 5 フランス共和国
 - 6 政治制度
 - 7 (小テスト第2回：第3, 4, 5, 6回分の内容で20点) マリアヌ
 - 8 宗教 移民の歴史
 - 9 ラインテ テロ 多文化主義と統合主義
 - 10 (小テスト第3回：7, 8, 9回分の内容で20点) 女性論 ジェンダー
 - 11 結婚 パックス (パートナー制度) 同性婚
 - 12 教育制度
 - 13 7/11 (小テスト第4回：10, 11, 12回分の内容で20点) 「フランス的なこと」とは何か
 - 14 7/18 (小テスト第5回 20点)
- 前期授業で講義した各テーマのうち、印象に残ったテーマを2つ選んで、A4一枚(1200字)に自分なりの感想を書いて提出

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

5回の小テストがあるので、小テスト前にはそれまでの講義内容をまとめておいてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | | |
|------|------|---|
| 中間試験 | 0% | |
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 0% | |
| その他 | 100% | 成績は、1回20点の小テスト5回の点数を合計して、90点以上、80点以上、70点以上、60点以上、59点以下を、入学年度により、S・A・B・C・E または A・B・C・D・E で評価します。 |

小テストは持ち込み可です。

成績評価の方法・基準(備考)

出席点はありませんが、教室で毎回出席をとり、4回欠席で成績評価対象外とします。コロナやインフルエンザ感染は公欠扱いにするので、感染したことを証明する書類等を提出してください。忌引やその他の公欠届、また配慮願がある場合も公欠扱いにするので、書類を出してください。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用するテキストはありません。毎回manaba上にプリントを配布して、授業中に資料やYouTube 画像を共有します。この内容から小テストが作成されるので、各自メモを取っておくようにしてください。manabaにのせた情報や資料はいつでも閲覧可能です。また小テストは資料閲覧可能ですので、いつでも見ながら小テストに取り組んでください。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名: フランス文化研究B

担当教員: 杉村 裕史

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 木3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-FS2-D312

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:59:09 更新者: AA1932

更新日時: 2024-01-31 10:47:37

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

フランスの日常生活や食文化など、フランスの魅力を探る文化事項をテーマごとに学ぶ。

科目目的

後期は、フランスの食文化やフランス人の生活、ファッション、音楽、映画、世界遺産やパリなどの観光案内など、フランスの魅力を探る内容となります。

到達目標

フランス文化を学びつつ、「フランス的なこととは何か」を考える力を身につける。

授業計画と内容

- 1 後期オリエンテーション
ブーランジュリーとは
- 2 チーズの文化史
- 3 ワインの文化史
- 4 (小テスト 第1回 パン・チーズ・ワイン 20点) フランス料理史・カフェ文化
- 5 フランスの音楽文化
- 6 フランスのモードの歴史
- 7 フランス映画史
- 8 (小テスト 第2回 音楽・モード・映画 20点) 水の文化史
- 9 パリ 巨大なテーマパーク
- 10 フランス人の生活暦
- 11 (小テスト 第3回 水・パリ・生活暦 20点) フランスのマンガ・アニメ
- 12 建築と宗教
- 13 (小テスト 第4回 マンガ・アニメ・建築 20点) スポーツ
- 14 小テスト第5回 40点満点
後期授業で講義した各テーマのうち、印象に残ったテーマを2つ選んで、A4一枚(1200字)に自分なりの感想を書いて1/16までにmanabaに提出

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

5回の小テストがあるので、小テスト前にはそれまでの講義内容をまとめておいてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 0%
- 平常点 0%

その他 100% 成績は、1回20点の小テスト5回の点数を合計して、90点以上、80点以上、70点以上、60点以上、59点以下を、入学年度により、S・A・B・C・E または A・B・C・D・Eで評価します。
小テストは持ち込み可です。

成績評価の方法・基準(備考)

出席点はありませんが、教室で毎回出席をとり、4回欠席で成績評価対象外とします。
コロナやインフルエンザ感染は公欠扱いにするので、感染したことを証明する書類等を提出してください。
忌引やその他の公欠届、また配慮願がある場合も公欠扱いにするので、書類を出してください。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

使用するテキストはありません。毎回manaba上にプリントを配布して、授業中に資料やYouTube 画像を共有します。この内容から小テストが作成されるので、各自メモを取っておくようにしてください。
manabaにのせた情報や資料はいつでも閲覧可能です。また小テストは資料閲覧可能ですので、いつでも見ながら小テストに取り組んでください。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

この授業は、仏文専攻・語文コース系の教員が担当しています。

語文コースHP <https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/futsubun-gobun/>

語文コースブログ <https://chuo-bun-futsubun-gobun.blogspot.com/>

備考

科目名：美術史各論(3)A

担当教員：岸 佑

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：木5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D455

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:59:14 更新者：AA1932

更新日時：2024-01-31 10:44:16

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、近代建築デザイン史についての知識獲得を目的とします。欧米から広がった近代建築運動（モダン・ムーブメント）は、鉄・ガラス・コンクリートによる抽象的な形態や美学とともに、世界中の都市と建物の様相を一変させました。本授業では、近代建築運動の前提となる19世紀の社会的・文化的背景から出発し、20世紀前半のモダニズム成立までを辿ります。授業は、事前資料（毎週課します）の読み込みを前提に、学生による発表とセミナー（人数によっては講義）とし、インタラクティブな授業形態を試みます。

科目目的

この科目は、20世紀前半の都市・建築デザインを概観することを通して、学位授与の方針で示す「専門的学識」および「幅広い教養」を学生が修得することを目的としています。それとともに、主体的に学ぶ姿勢を重視します。学びの意識が高ければ、講義内容をより深く学ぶことができ、かつ学びの喜びを身につけることができるでしょう。

到達目標

1. 20世紀前半の都市・建築デザインの基本的な流れ・人物・出来事を説明できる。
2. 現代へのモダン・ムーブメントの影響とその重要性について理解する。
3. 自らの考えを相手にわかりやすいように伝えることができる。
4. 自らの考えを自らの言葉で書くことができる。

授業計画と内容

1. イントロダクション：授業の進め方、建築鑑賞
2. 近代化への布石：技術者の貢献／労働者の環境改善／様式の選択と折衷／理想的建築
3. 近代建築の曙光：アーツ・アンド・クラフツ運動／グラスゴー・スタイル／郊外住宅地／『明日の田園都市』
4. 近代への多様な道のり1：アール・ヌーヴォー／モデルニスモ／ユーゲントシュティール
5. 近代への多様な道のり2：オットー・ワグナー／アドルフ・ロース／鉄筋コンクリートという近代性
6. 切断される「過去」：キュビズムと建築／イタリア未来派／ロシア構成主義／デ・ステイル
7. 大量生産社会の建築へ：ドイツ工作連盟／表現主義建築／バウハウス／ジードルンク
8. 摩天楼と郊外住宅：メトロポリスの摩天楼／メトロポリスの表象／プレーリー・ハウス／ユーソニアン・ハウス／フロントピアの前衛
9. ル・コルビュジエとミース・ファン・デル・ローエ
10. 教義としての近代建築：合理と機能／機能的都市の確立／「スタイル」としての近代建築／様式から空間へ
11. 合理性と固有性：経済と建築／規格化と構造の表現／SOMの建築／風土の中の建築／イデオロギーと建築
12. 学生によるプレゼンテーション
13. 学生によるプレゼンテーション
14. 学生によるプレゼンテーション

*受講生の理解度を重視して進めます。そのため、各回の内容や順番に変更が生じることがあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

| | |
|------|------------------|
| 中間試験 | 0% |
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 30% レポート |
| 平常点 | 30% 授業参加度 |
| その他 | 40% 2回のプレゼンテーション |

成績評価の方法・基準(備考)

個人課題として、レポート、プレゼンテーションなどがありますが、それ以外に授業中の発言など積極性を重視します。授業ではインタラクティブに相互で意見交換をしながら授業を進めるので、能動的に授業に参加するようにお願いします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
 - ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはありません。
参考文献は講義中に適宜紹介しますが、さしあたり以下を参照してください。
鈴木博之、横手義洋、五十嵐太郎『近代建築史一部分カラー版』(市ヶ谷出版、2010年)
本田昌昭・末包伸吾編『テキスト 建築の20世紀』(学芸出版、2009年)
ケネス・フランプトン『モダン・ムーブメントの建築家たち』(青土社、2023年)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：美術史各論(3)B**担当教員：和田 菜穂子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D456

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:59:15 更新者：AA1932

更新日時：2024-01-31 10:43:12

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

芸術と建築、そして日常生活をテーマに、欧米における近代建築の主な動向について学びます。20世紀を代表する建築家を取り上げ、各論として建築家の思想やデザインプロセス、そして日本への影響について学びます。具体的に日本と関わりのある建築家として、ル・コルビュジエ、フランク・ロイド・ライト、アルヴァ・アアルトらを取り上げ、近代日本の建築界に及ぼした影響に触れます。学生によるプレゼンテーション等を盛り込み、インタラクティブな授業形態を試みます。

科目目的

自ら学ぶことを目的とします。個人課題は書評とPPTによるプレゼンテーションです。学びの意識が高ければ、より深く学ぶことができ、かつ学びの喜びを身につけることができるでしょう。学生同士による批評も加え、参加型の授業として共に学ぶ楽しさも共有します。

到達目標

1. 20世紀後半の都市・建築デザインの基本的な流れ・人物・出来事を説明できる。
2. 現代へのモダン・ムーブメントの影響とその重要性について理解する。
3. 自らの考えを相手にわかりやすいように伝えることができる。
4. 自らの考えを自らの言葉で書くことができる。

授業計画と内容

1. イントロダクション：授業の進め方、建築と芸術の関わり
2. 学生による発表
3. 講義：ル・コルビュジエ
4. 講義：ル・コルビュジエと日本
5. 講義：フランク・ロイド・ライト
6. 講義：フランク・ロイド・ライトと日本
7. ワークショップ：グループワーク
8. 学生による発表
9. 課外授業：建築見学会
10. 講義：北欧の建築家アルヴァ・アアルト
11. 講義：北欧と日本
12. 学生による発表
13. 学生による発表
14. 総括：まとめ

*受講生の理解度を重視して進めます。そのため、各回の内容は変更することがあります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

積極的に学外の建築見学に行くことを推奨します。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

| | |
|------|---------------|
| 期末試験 | 0% |
| レポート | 30% レポート |
| 平常点 | 30% 授業参加度 |
| その他 | 40% プレゼンテーション |

成績評価の方法・基準(備考)

個人課題として、レポート、プレゼンテーションなどがありますが、それ以外に授業中の発言など積極性を重視します。授業ではインタラクティブに相互で意見交換をしながら授業を進めるので、能動的に授業に参加するようにお願いします。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba、Googleドライブなどを通じて資料共有などを行います。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはありません。授業のレジュメを配布します。
 参考文献は講義中、適宜紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：美術史各論(4)

担当教員：永井 裕子

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：月4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-HR2-D457

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:59:16 更新者：AD0570

更新日時：2024-01-12 17:09:29

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

イタリア・ルネサンスの主要な芸術家と作品を学びながら、この時代の美術の流れを概観します。授業ではルネサンス黎明期、初期ルネサンス、盛期ルネサンスを軸として芸術の展開を見ていきます。授業では数多くの図版や映像資料を使いますので、それぞれの作品の特徴を考えながら見るようにして下さい。

科目目的

イタリア・ルネサンス美術全般に関する知識を身につけ、この時代の芸術がなぜ重要なのか理解することを目的とします。

到達目標

ルネサンス美術をはじめとした芸術作品に向き合う際に、単なる芸術鑑賞に留まらない分析力を身につけることを目指します。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：ルネサンス黎明期 1
- 第3回：ルネサンス黎明期 2
- 第4回：ルネサンス黎明期 3
- 第5回：ルネサンス黎明期 4
- 第6回：初期ルネサンス 1
- 第7回：初期ルネサンス 2
- 第8回：初期ルネサンス 3
- 第9回：初期ルネサンス 4
- 第10回：盛期ルネサンス 1
- 第11回：盛期ルネサンス 2
- 第12回：盛期ルネサンス 3
- 第13回：盛期ルネサンス 4
- 第14回：まとめ

なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する可能性があります。また、美術館見学で授業に代えることがあります。その場合に見学費は自己負担となります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

| | | |
|------|-----|---|
| 期末試験 | 0% | |
| レポート | 60% | イタリア・ルネサンス美術に関する基礎知識を前提とした上で、自ら選んだ作品について調べ、どのような観点からその作品を分析しているかを評価します。 |
| 平常点 | 40% | 授業への参加・提出物の状況を評価します。 |
| その他 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

美術館見学を取り入れる可能性があります。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
なし。資料を配布します。

【参考文献】
小佐野重利, 水野千依, 京谷啓徳『西洋美術の歴史 4-ルネサンスI』中央公論新社, 2016年.
『世界美術大全集: 西洋編』11~13巻, 小学館, 1992-94年.
高階秀爾, 遠山公一『ルネサンスの名画101』新書館, 2011年.

【美術辞典】
『新潮世界美術辞典』新潮社, 1985年.
J. ホール『新装版: 西洋美術解説事典』河出書房新社, 2004年.

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

